令和７年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会議事録

日　時：令和７年７月４日（金）午前９時３０分～午前１０時３５分

場　所：へきなん福祉センターあいくる　第１会議室

出席者：審査委員５名【永谷洋二、鳥居多佳子、鈴木清貴、角谷恵里子、山本貴史】

　　　：事務局　４名【山田昌宏、堀田葉子、水村浩一郎、鳥居利成】

　　　：説明者　２名【市民活動センター　長谷川、古鷹】

欠席者：審査委員１名【土屋裕子】

傍聴者：なし

会議内容

１　あいさつ（永谷委員長）

２　議題

(1)　令和６年度市民活動センター事業報告及び決算について

長谷川センター長より説明。

審査委員：実績の総利用者数というのは来館した人全員ということか。

説 明 者：印刷機、会議室やおしゃべりコーナー等、市民活動センターに係る施設を利用した人。きづなぁぐの参加者も含んでいる。

審査委員：各公民館まつりに参加しているが、参加していない地区の理由と、参加したときの市民の反応はどうか。

説 明 者：大浜、鷲塚、西端には行けていないが、実施していない地区や人員の関係で行けなかった。

イベント情報や防災に関する発信をしたが、その時に配布したチラシを見て、紹介したイベントに参加したという人もいた。

審査委員：マッチング件数が減ってきているが、どのようにとらえているか。また、どんなマッチングがあったか。

説 明 者：相談件数に対するマッチング件数の割合は変わっていない。相談件数が減ってきているからマッチング件数も減ってきている。

今までの情報発信は、団体に対するものが多く、個人に対するものが少なかった。そのため、個人に市民活動センターの存在があまり知られていないのではないかと感じている。

そこを広げられるように、ＬＩＮＥやホームページを利用していくことを考えている。特にこれからは、イベントやマッチングの実績をあげることで、ＰＲをしていく。

マッチングの実績としては、ゴミ拾いで人がたくさん必要な時や施設への慰問等でもマッチングしている。

審査委員：決算について事業収入の実績が予算に対して少ないが、何を収入として予算立てしているか。

説 明 者：印刷関係が主な収入となっている。

審査委員：つなが輪などのイベントをやった後の利用者は増えているか。また、イベントの事業予算はどこから得ているのか。

説 明 者：その後の展示等を見に来てくれる人はいる。事業予算は、協賛金をもらったり、市からの補助金を充てている。

審査委員：協賛者に付加価値を与えるとより増えるのではないか。

説 明 者：今の取り組みとしては、ＨＰに協賛企業のリンクを貼ったり、イベント当日に掲示したりしている。

審査委員：相談件数やマッチング件数が、令和２年以降かなり減っているが、カウント方法を変えたのか。

説 明 者：令和元年度までは、内容に関わらず話しかけたらカウントしていたが、令和２年度以降は、市民活動に関する相談だけを計上するようにした。

マッチング件数については、イベント参加者同士でつながっても相談されたものでなかったり、報告がなかったりするとカウントできていないものある。今後はその件数も拾えるように情報収集をしていきたい。

審査委員：町内会の防災訓練のお手伝いをしてもらったが、それも入れていいのではないか。

説 明 者：今回は件数に入れていないが、今後は件数に入れていく。

(2)　令和７年度市民活動センター事業計画及び予算について

長谷川センター長より説明。

審査委員：公式ＬＩＮＥやＨＰが進んできて、ペーパーレス化してくると、インターネットが苦手な人など、情報を見れない人が出てくるのではないか。

説 明 者：サポプラ通信は、偶数月に広報へきなんに掲載している。紙のものも発行しており、郵送はしないが希望者には持って行ってもらえるようにしている。

公式ＬＩＮＥを有料版に変え、情報発信ができる回数を月２００件から５０００件に増やした。紙への対応はするが、できるだけペーパーレス化を進め、郵送料や印刷代を抑えていく。公式ＬＩＮＥの友達数も２００件以上に増えてきている。

審査委員：きづなぁぐのことで、資金的・規模的に自立できるようにすると言われたが、具体的に何かして、市からの補助金を減らしいくという考えがあるのか。

説 明 者：自立できるように、実行委員それぞれがつながりのあるところにお願いをしている。ただ、運営や会場の設営にあたって必要な物品等があるので、そういうものに市の補助金を使っていて、減らしていく想定はしていない。

審査委員：資料の重点施策について、毎年同じ内容が記載されている。審査委員会では、その年度に応じて、より詳細な内容を報告してほしい。

審査委員：平成２６年の公募の際に、ボランティア活動を市民の人に発信するということと、愛知ネット自身でもお金を生むということをアピールしてもらって、それを理由に選定したという経緯を聞いている。ボランティア活動のＰＲというのは実施されていると思うが、お金を生むという活動について、印刷関係の収入だけでは予算に対して実績が足りていない状況なので、ほかの事業を新たに考えていただきたいが、いかがか。

また、一般管理費として3,300,000円を計上されているが、これは何に使われているか。

説 明 者：利益を上げる事業はできないと考えている。

一般管理費は、主に災害支援に使われている。今回も愛知ネットが能登にキッチンカーを出したりとそういった活動に使っている。

審査委員：イベントを行うにあたっても、参加者から適正な負担をとるという行為

は、利益を得るためということではなく、事業費にあてるためということであると思う。それがプラスになってはいけないが、それを事業費や環境整備に充てることで、市の委託料を抑えることにつなげていってほしい。

3　その他

＜特になし＞